厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
（分担）研究報告書

地域・在宅高齢者における摂食嚥下・栄養障害に関する研究

研究分担者　　梅垣宏行　名古屋大学大学院医学系研究科老年科学　講師

研究要旨
　これまで、我が国において在宅医療をうける高齢者の大規模なコホート研究はほとんど報告されていない。本調査は在宅医療をうける高齢者において、その予後や影響する因子を明らかにすること、また訪問診療をうける患者のコホートを形成し、観察的な研究を行うことを目的とする。本年度はコホート形成を継続し登録者は 98 名となった。

A．研究目的

　我が国では、人口の高齢化がすすみ、在宅医療をうける高齢者が増加している。通院・入院にならぶ第 3 の医療の提供の方法として、今後ますますその重要性は増していくものと考えられる。国民の６０％は在宅での療養を希望しており、今後在宅医療の充実及び質の向上は喫緊の課題である。

　在宅医療をうける高齢者では、身体機能低下、認知機能低下、低栄養状態の者も多く、その医療を考える上では多くの要素を勘案する必要がある。しかし、これまで、我が国において在宅医療をうける高齢者の大規模なコホート研究はほとんど報告されていない。

　本調査は在宅医療をうける高齢者において、その予後や影響する因子を明らかにすることを目的とする。

B．研究方法

　本年度は、今後の観察のためのコホート形成を継続した。５名の協力医師が新規に訪問診療を開始する患者の内、同意の得られた者を登録した。基本調査として以下の情報を登録した。

(ア) 基本情報：　性別、年齢、生活状況、要介護状態
(イ) 身体情報、食事摂取状況
　1) 身長、体重
　2) 視力、聴力障害、コミュニケーション障害の有無
　3) 栄養摂取ルート：経口、それ以外（経管栄養、経静脈栄養）
　4) 義歯の有無
　5) 嚥下機能の評価（とろみ剤の使用、時間、嚥下能力など）
(ウ) 基本的 ADL
(エ) 精神心理機能

(オ) 併存疾患
1)主疾患、合併疾患
(カ) 薬剤調査
1)処方薬数
2)処方薬の種類
(キ) 老年症候群の有無
1)転倒骨折　2)頻尿　3)尿失禁　4)腰痛ならびに関節痛　5)褥創
(ク) ＱＯＬ調査票（本人ならびに介護者）
（ケ）血液検査結果

C．研究結果

本年度は９８名の登録を実施した。登録患者の背景を表に示す。

N(男性)	98 (58)
年齢	78.9±10.4
介護度	
要支援1	1
要支援2	4
要介護1	10
要介護2	15
要介護3	20
要介護4	16
要介護5	29
MNA-SF	7.8±3.0

登録時の MNA-SF のデータが収集できたものは、78 名であり、この群の MNA-SF のポイントで 0-7 ポイントの低栄養群と 8 ポイント以上の非低栄養群の 2 群にわけて、イベント数の比較を行ったところ（Student T)、低栄養群ではイベント数の平均±標準偏差が1.3±0.9､非低栄養群では0.9±1.4と登録時に低栄養であった群でイベント数が多い傾向を認めたが、統計学的な有意差には至らなかった。

D．考察

訪問診療をうける患者は高齢で、要介護度が高かった。MNA-SF にて低栄養と評価されたもので、イベント数の多い傾向を認めた。今後、さらに登録患者を増やし、経過を観察する必要がある。

E．結論

訪問診療の観察研究のためのコホート形成を継続した。MNA-SF による栄養状態のスクリーニングが、予後の予測に有用である可能性が示唆された。

G．研究発表

１．論文発表

なし

２．学会発表

在宅医療における QOL 測定法の開発
梅垣宏行、野村秀樹、前田恵子、鈴木裕介、葛谷雅文
（日本老年医学会雑誌 VOL50・P102・2013）

H．知的財産

なし